

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



平成28年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2016/8/8 現在

【経済】

第1問（22点）

- I 問1 C 問2 C 問3 A 問4 C 問5 C 問6 A 問7 B
問8 B 問9 C 問10 D
- II 問1 D 問2 E
- III 問1 B 問2 D

第2問（35点）

- I 問1 B 問2 A 問3 C 問4 A 問5 A 問6 D 問7 D
問8 C 問9 B 問10 C 問11 D
- II 問1 D 問2 D 問3 C
- III 問1 E 問2 A 問3 B
- IV 問1 C 問2 B 問3 A

第3問（15点）

- 問1 C 問2 B 問3 B 問4 C 問5 D 問6 A 問7 C
問8 D 問9 B 問10 D

第4問（18点）

- I 問1 A 問2 A 問3 D 問4 B 問5 C
- II 問1 C 問2 E 問3 B
- III 問1 D 問2 A 問3 A

※ 変更（8/8 付）

第2問IV問2：変更前C→変更後B

第4問II問3：変更前C→変更後B

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。
なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2016 年（春）証券アナリスト 1 次試験

「経済」

今回の試験のほとんどの出題内容は、昨年の春試験の内容をそのまま受け継いだものであり、また、出題レベルも最近の春試験と同じように標準的なものでした。出題内容を個別に見ると、第 1 問 I の問 5 の「数表で示された個人の需要曲線と市場需要曲線の関係」と、第 4 問 I の問 1 の「オーバーシュート・モデル」が、多くの受験者にとって予期していなかった問題として挙げることができます。ただし、試験問題全体としては、過去のアナリスト試験でも出題されている基本問題が多く含まれており、これら基本問題から確実に得点することが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見えますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の問題数は、第 1 問が 14 問、第 2 問が 20 問、第 3 問が 10 問、第 4 問が 11 問と、全部で 55 問あり、昨年の春試験よりも 1 問増加していました。また、満点 90 点のうち各大問の配点は、第 1 問が 22 点、第 2 問が 35 点、第 3 問が 15 点、第 4 問が 18 点と、こちらは昨年の春試験と同じ配点でした。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動の分析（消費者の選好関係、代替効果と所得効果、個人の需要曲線と市場の需要曲線など）、企業行動の分析（利潤など）、完全競争市場（需要曲線と供給曲線、価格弾力性など）、不完全競争市場（独占市場、寡占市場など）、市場の失敗（公共財、外部効果、費用逓減産業など）、状態価格、ゲームの理論、情報の経済学、不確実性下の資産選択から出題されています。なお、計算問題の内容は、昨年とほぼ同じものとなっています。

第 2 問（マクロ経済学全般）では、国民経済計算、物価指数、貨幣と金融資産についての関係式、IS-LM 分析、AD-AS 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説など）、マクロ経済学における企業行動、インフレとデフレ、成長会計、貨幣数量説など、過去の出題内容と同じような問題が多くを占めています。

第 3 問（金融経済）では、金融システムの類型、日本の資金循環勘定、日本の短期金融市場、日本銀行に関する制度、日本銀行と金融調節、財政事情と財政政策の効果、公債発行の問題点など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、オーバーシュート・モデル、ポートフォリオ・バランス・アプローチ、外国為替市場への介入、国際収支と対外純資産、貯蓄・投資バランスと経常収支、購買力平価・実質為替レート・実効為替レートの計算問題、ゼロ金利制約下の量的金融緩和政策と為替レート、といった、過去の出題内容と同じような問題が中心となっています。

以上